

楯 中 魂

3 学年だより

第 40 号

2026/01/23

良い遺伝子のスイッチがONになる生き方

細胞って聞いたことがありますよね。人間も細胞でできています。いったい、何個の細胞でできているのでしょうか。答えは60兆個です。1kgあたり1兆個の細胞の割合になります。この小さな細胞の中には染色体と呼ばれるものが入っています。さらにこの中に、遺伝子があります。さて、髪の毛の細胞の中の遺伝子と心臓の細胞の中の遺伝子は同じでしょうか。違うでしょうか。答えは同じです。どの細胞の遺伝子であっても同じなのです。「心臓に毛が生えている」という言葉がありますが、実際にはないことです。なぜそんなことが起きないのでしょうか。実は髪の毛の細胞では髪の毛になる部分の遺伝子がONになり心臓になる遺伝子のスイッチがOFFになっているからです。例えば、蝶を頭に思い浮かべて下さい。幼虫には羽がありません。幼虫の間は羽の遺伝子はOFFになっています。幼虫の遺伝子OFFになって、羽の遺伝子がONになるときれいな蝶になるのです。小さい虫でも遺伝子のスイッチのON・OFFが変わるとまるで別の生き物ようになってしまうのです。

では人間はどうでしょうか。家本賢太郎さんという人がいます。家本さんは野球が大好きな少年でした。6年生の頃からよく熱を出すようになり、中学2年生の1月に手術行いましたが、上手くいかずに下半身が動かない状態になりました。そして、車いすでの生活になりました。家本さんは、入院中にコンピュータに興味を持ち、独学で操作やプログラミングを覚えました。そうしているうちにインターネット関係の仕事に就くことを考えるようになりました。家本さんは次のように考えたのです。「自分のすることが誰かの役に立つ。それを自分の仕事にすればいいんだ。おもしろそうだな。」頭の中に、「仕事」という言葉が初めて浮かんだ瞬間でした。「自分で会社を作って仕事をしよう」そう決心したのは、15歳を迎える1,2ヶ月前のことでした。こうして家本さんは中学校を卒業してすぐ、15歳と5ヶ月で「クララオンライン」という会社を作り、社長になりました。父親のだぶだぶのスーツを着て、車椅子で会社を回って仕事をもらうセールスをしたそうです。このような生活をしていた2年後のある日、奇跡的に足の指が動くようになりました。そして、次第に脚全体が動くようになったのです。歩くこともできるようになりました。今では、普通の人と同じような生活ができるまでになっています。プラス思考で前向きに生きてきたため家本さんには良いことが起こったと考えることができます。

筑波大学の村上和雄先生は遺伝子のスイッチがONになるには5つのことが必要だと言います。1つ目は良い人と出逢うことです。2つ目はプラス思考で生きることです。3つ目は感動する心持つことです。4つ目は感謝する心を持つことです。5つ目は世のため人のためを考えて生きることです。良い人生を送りたければ良い遺伝子がONになるような生き方をすることが大切です。反対に、悪い遺伝子のスイッチがONになる生き方もあるそうです。例えば、マイナス思考で、消極的な生き方をする。文句や悪口ばかり言う。このようなことをすればするほど、悪い遺伝子のスイッチがONになっていくのだそうです。皆さん、ハンディに負けずに自分の人生を切り開いていった家本賢太郎さんのように、良い遺伝子のスイッチがONになるような生活をしましょう。



来週の予定

1/26 月	27 火	28 水	29 木	30 金
	恒山・日大・創学館一般入試 選考訓練 3年生弁当持参	東海一般入試	前期A日程結果通知	学院一般入試
15:10/17:00	14:55/16:35	15:10	14:55/16:35	15:20/16:35